

第1回地域連携担当者研修会

講話 「地域連携担当について」(県生涯学習課協働教育班)

事例発表 「地域連携担当としての実践」

講師：水野裕也氏(石巻市視聴覚センター 社会教育主事)

令和3年6月29日(火) 登米市中田総合体育館(中田アリーナ)



(午後は、「みやぎ教育応援団」マッチング会議)

【参加団体】 ※ () 内の数は登録番号

- ・特定非営利活動法人 防災・減災サポートセンター(71) ・東北生活文化大学短期大学部(139)
- ・株式会社 明治(181) ・SMBC コンシューマーファイナンス(194)
- ・株式会社 桂設計(201) ・東北財務局(218) ・幸風房(270)
- ・一般社団法人 宮城県建設業協会(308) ・特定非営利活動法人 Synapse40(312)
- ・株式会社 加藤建設東北営業所(334) ・Last Princess Date Yasuko Project(337)
- ・東北福祉大学(343) ・成香プロジェクト(347)



【受講者からの声】 ※抜粋

- ・協働教育推進総合事業についてよく理解できた。
- ・文部科学省の指針等が詳しく分かった。
- ・地域連携担当3年目になるが、担当としての役割を十分に理解できず、不安が残る中、今年度がスタートした。「地域連携担当について」の講話から、今後何をしていけば良いかが見えてきた。これからもこのような研修会に積極的に参加し、実践に向けて努力していきたい。
- ・本校は今年度よりCSを立ち上げ取り組んでいる。今後の基本的な方針を考える貴重なお話だった。・具体的例がとてもよかった。勤務校での実践に繋ぎたい。
- ・地域の子どもたちは地域と学校が協働で育てることを共有することが大切だと感じた。
- ・多くの資料から地域連携の役割や考え方・意義を見つけることができた。

- 沿岸部の石巻地区のため、内陸や山間部の事例は大変参考になりました。
- 地域連携担当として、今の学校でどのような仕事ができそうなのか分かった。
- 今後活動するに当たり、自分だけで何とかしようと思わず、学校内外の人たちとチームで取り組むことが大切だと聞き少し 気持ちが楽になった。
- 先日のコーディネーター研修会で学んだことを振り返ることができたり、地域連携担当者の役割が明確に示されていたりし、今後自分がやるべきことが見えてきた。
- 新しいものをつくったり始めたりするのではなく、今行っていることを整理して繋ぎ直したり付け足したりするということを再確認できた。
- 地域連携担当2年目ですが、担当として何をすべきなのかよく分からず2年目を向かえてしまっていた。大きなテーマ「人づくり、仲間づくり」や「地域とのつながり」といった話から何をすべきかイメージがもてた。まずは、「子ども」、「保護者」、「教師」のニーズを確認していきたいと思う。
- 自分の立場を再確認することができた。コミュニティ・スクール（来年度スタート）の準備にも貢献したいと感じた。
- これまでやってきたことをまず、継続していきたいと思う。
- 地域連携担当として、何をすべきか分かりませんでした。アウトラインはなんとなく理解することができた。ただ、地域といっても学区が非常に広く、どのような人材がいるのか全く分からない状態なので、悩ましいところ。
- 先進校をモデルとした具体例を示していただいたり、数多くのデータや資料を用いて説明したりしていただいたので、大変分かりやすかった。
- 地域連携協働活動は豊かな教育活動であることを再認識できた。
- 地区コーディネーター、運営協議会と連携・協力して、地域と学校の間を前進させていければと思う。
- 学校を核として、地域と協働していくことで、児童に生きる力を育めるよう、担当の役割・責務を果たしていきたい。今 ある学校の（地域の）人材や環境を生かすことから始めていきたい。
- このような状況下だが、一昨年度までの地域学校協働活動を今年度、来年度も可能な限り続けていくことができるようにしたい。
- 地域連携担当としての心構え等、大変参考になった。現在、地域コーディネーター担当の方と連携を取りながらサポートスタッフの依頼について進めている。地域の方々や活動できるよさ、すばらしさを感じている。
- 県が後ろ盾として、我々を支えていることが分かりました。我々の方が、行政の取組を活かし切れていないことが分かった。多くつながりを持ち、学校に有用なつながりをつくっていきたく思った。
- 今年度異動したばかりなので本校の教育活動や地域の実態・特色を理解する一年にしたいと考えた。「種をまく」というお話があったが、種をまくための準備をまずはしていきたい。
- 地域連携として、何を、どうやって、どのようにしていくかというところが1年目なので十分分かっていなかったが、できることからいねいに一つずつやっっていこうということが分かった。今あることを工夫しながらできることから地域と連携していこうと思う。
- 肩肘をはらずに取り組んでいこうと思えるようになった。ただ、そのためにも地域の様子をもっと知る必要性を感じた。
- これからの時代を考えた時、「持続可能な者会」を担う人材を育てるためにも、学校を核とした地域学校協働教育が必要だと改めて実感した。